

学校だより



《めざす子ども像》
進んで考え、自ら学ぶ子ども
心豊かで思いやりのある子ども
ねばり強くがんばる子ども

令和3年6月26日(土) No.13

校長：須藤 美香 Tel：0880-24-0006

6月の生活目標：校舎内での過ごし方を考えよう

防災の取組・2

防災キャンプ2日目は、1時間目に「避難所生活で私たちにできること」について、学級でグループごと話し合いをし、2時間目には、危機管理課の芝野さん・中野さんのほかに、東又地区の自主防災の皆さんにも参加をしていただきました。鬼頭 昭憲会長さん(黒石)をはじめ、樋口 寛さん(八千数)、藤原 靖夫さん(本堂)、窪田 司さん(黒石)、山本 道雄さん(平野)、山本 康雄さん(飯ノ川)にご協力いただき、各グループの話し合いに入っていただき、子ども達の意見にアドバイスや避難所のことについて教えていただきました。ありがとうございました。また、話し合いの中に保護者の皆さんにも入っていただき、共有できたことがとてもよかったと思います。最後には、各グループの発表を聞き、他のグループの考えにも共感しお互い感想を述べることができました。鬼頭会長さんから、「各地での防災訓練が、日曜日実施の時などには、子ども達もできるだけ率先して参加をしてほしい。各自が自分の命を自分で守ることが大切。」とお話がありました。また、伊與木さんより、「子どもの笑顔を見ると、元気が出る。子ども達が(避難所)励ましてあげてください。」と子ども達へのメッセージもいただきました。

5年生からの終わりの挨拶では、咲良さんが「意見交流を初めてして楽しかった。わからないことを学習できた。」七海さんが「人の意見を聞いた方が、考えが深まる。」と学習を振り返り、締めくくってくれました。

今、しっかり学んでいる子ども達が、各地区で活躍してくれることを願っています。



昼食は、参加者全員が、アルファ米やレトルトカレー、各自持参したカップ麺など非常食を食べました。湯沸かし用のガス設置には、渡邊石油さんにもご協力いただきました。ありがとうございました。

午後には、四万十清流消防署員の方に来ていただき、救急法を学びました。いざという時には、大人を呼ぶことを教えてもらった。学校のアEDの場所を確認したりしました。

今回子どもの体験はできませんでしたが、できる時期になりましたら、改めて実施をしたいと考えています。



この他にも、簡易トイレや簡易テント、段ボールベットなど今後避難所で使われるであろう様々な道具などを見たり組み立てたりしました。

少しでも、避難所生活が過ごしやすくなるようにたくさん工夫されていることを知りました。



とっても丈夫なベットです



上部がネットになっていて
圧迫感がありません



簡単に組み立てることが
できます

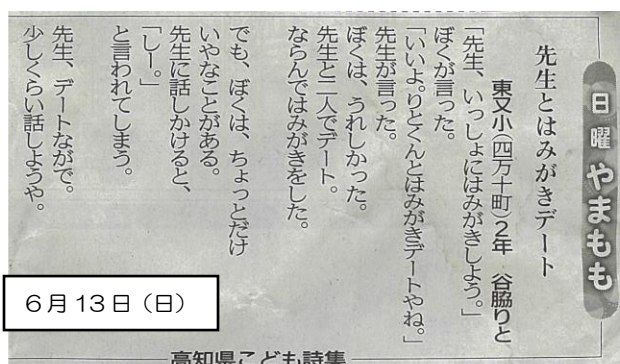


リモコンで排泄した
ものをビニールに閉
じ込めます

災害時には、**自助**（家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、自分で守ること）・**共助**（地域の災害時要援護者の避難に協力したり、地域の方々と消火活動を行うなど、周りの人たちと助け合うこと）・**公助**（市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと）が互いに連携し一体となることで、被害を最小限にできるとともに、早期の復旧・復興につながるものになります。

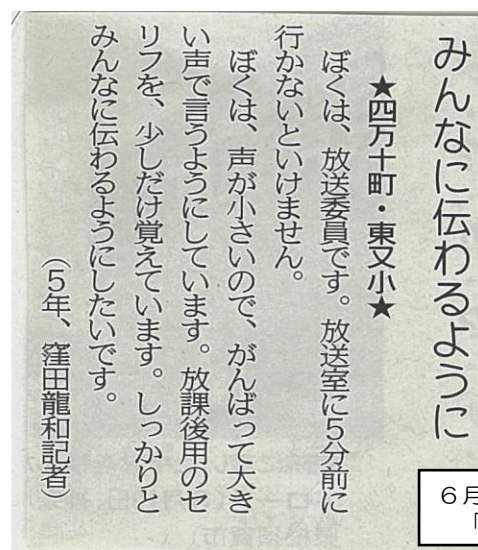
5年生は、2日間を通して地域・行政の方々の協力のもと、多くのものを学び感じたことでしょう。自分や家族、地域を守る気持ちや思いが一層深くなったのではないのでしょうか。

高知新聞に掲載されました

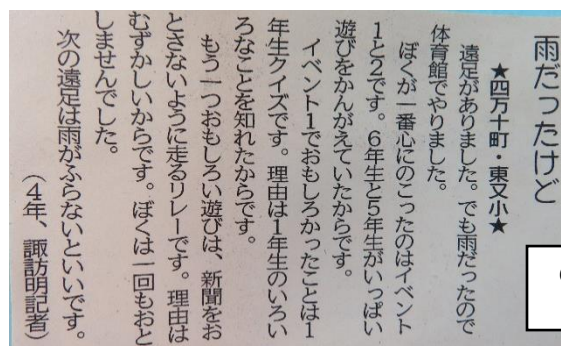


6月13日（日）

高知県こども詩集



6月18日（金）
「読もっか」



6月1日（火）
「読もっか」